



ステップ1 課題の把握

1. 各委員からの課題提案

- 子育て環境の整備
- 世代間交流から子育て環境づくり
- 地域コミュニティの広がりや深まり
- 地域コミュニティと分野間のネットワークづくり
- コミュニティへの協力意識の低下（町内会加入率や情報共有、助け合い意識など）
- コミュニティを生み出す「場所」「きっかけ」づくり

2. 課題検討会の実施（9月6日）

福祉・子育て支援→A

※ 地域コミュニティが機能していないことから課題が生まれている

コミュニティ→A

<課題についての意見>

- ◇子育て世代の町会への加入率が低い
- ◇子育て世代の町会への入口として公園が活用できないか
- ◇世代間交流の場としての公園
- ◇子どもを通して地域と接点を持つ
- ◇中学生になったら子どもも地域のためにできることがある
- ◇地域性を生かす取組を町会に提案する
- ◇「場づくり」を部屋、店舗などと狭くとらえるのではなく、人がつながりあえる「きっかけ」ととらえる
- ◇区民会議としては、課題を認識し、解決策の具体化について、働きかけや手法の検討を一緒にしていけると良い

ステップ2 課題の選定

3. 課題の選定

「新しい形のコミュニティづくり  
～地域でつながる～」

→福祉・子育て支援の問題についてもコミュニティづくりと関連づけていく

<想定される論点>

- 世代間交流
- 場づくり
- 地縁組織の活性化
- 要援護者支援
- 子育て環境の整備
- 環境への関心 . . .

4. 学習会等の実施（11月15日）

- ・都市型コミュニティ検討委員会の報告
- ・高津区における地域コミュニティ活性化について

<ポイント>

川崎市のコミュニティでは多様な主体による「連携」形成され、コミュニティカが生み出されている。

コミュニティカの3つの要素

- 人の絆  
→地域構成員間の信頼とつながり
- 問題の共有と解決  
→地域にある問題の発見、共有、解決
- 公平で民主的な地域社会  
→コミュニティの民主的なルールと規範

ステップ3 解決策の検討

5. 論点の絞込み（平成22年度第3回会議審議内容）

キーワード： つながる

- “世代間交流”でつながる
- “場作り”でつながる
- “地縁組織と分野別団体の連携”でつながる

6. 目指すべき方向性（企画運営会議まとめ）

- ・多様な場所・人・形式が「つながる」ことで、地域内に重層的な「つながり」をつくり、それによって地域の問題を共有・解決していく。
- ・「つながる」場面・人・形式を多様化しながら、それら全体がゆるやかに「つながれる」姿→「たかつモデル」のコミュニティの検討

7. 検討のヒント（企画運営会議まとめ）

- ・世代間交流は、必ずしも一緒に何かをすることではなく、地域にある場をいろいろな世代が共有しながら使うということでもある。
- ・世代交代には、世代間交流が必要。
- ・活動する子どもたちは世代間交流を意識し始めている。
- ・人と人、気持ちと気持ちがつながるには情報の共有が必要。そのために、PTA や地域教育会議といった中間組織の活躍が重要。
- ・集まりやすい地域の場所の活用。
- ・「顔の見える場」が地域にあることの意味。
- ・スポーツ組織が盛んな高津区の地域性を活かす。

8. 課題解決策のアイデア

（企画運営会議まとめ）

- ・小さな子どもの親世代には地域コミュニティへのニーズがありながら、町会と結びつくツールが無い。公園はそのツールの一つになり得る。
- ・公園を活用する人同士の交流の場をつくる
- ・小さな単位の集まりを統一的に「広場」と呼ぶことで、ゆるやかなつながりをつくる。
- ・ゆるやかなつながりによる「見守りネットワークづくり」
- ・スポーツによる場作り、地域との関係づくり
- ・スポーツ団体に加盟しない子どもも参加できるスポーツイベントの実施
- ・学校施設の活用。「地域の日」の設定
- ・体育指導員への協力の呼びかけ
- ・町会マネジメント講座の開催

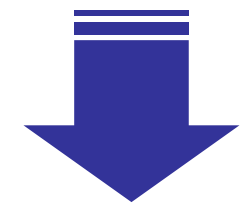
ステップ4 解決に向けた取組

9. 課題解決策の具体化に向けた検討

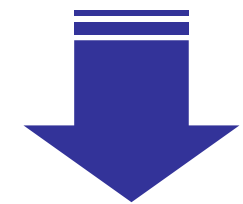
<検討の要素>

- ・実施時期
- ・主な担い手
- ・担い手ごとの役割
- ・区民会議としてできること
- ・行政による支援内容
- ・課題解決策ごとの優先度  
→資料9 検討シート

10. 提言・実施に向けたコーディネート



多様な主体の連携による取組の実現



課題解決！